

構造改革特別区域計画

1 構造改革特別区域計画の作成主体の名称

長野市

2 構造改革特別区域の名称

小規模校いきいき教育特区

3 構造改革特別区域の範囲

長野市の全域

4 構造改革区域の特性

長野市は、千曲川と犀川の合流点を中心に開けた長野盆地に位置しており、明治30年市制施行当時の面積は9平方キロメートル、人口3万人足らずの小都市でしたが、昭和29年に隣接の10か村の編入、昭和41年には2市3町3か村の大合併が行なわれ、周辺山間地域も含め面積404平方キロメートルの市域に拡大しました。平成8年には人口36万人を超え、平成10年2月には、長く市民の願いであった長野冬季オリンピック、同年3月長野冬季パラリンピックが開催されました。オリンピック等の開催と同時に、新幹線・高速道の実現や市内の都市基盤整備も急速に進み、さらには、平成11年4月には中核市へ移行いたしました。

市政の発展と共に、これまで以上に市民に身近な行政サービスの提供に努めておりますが、現在、厳しい社会経済情勢の中における行財政の運営や地方分権の推進に伴う近隣町村との合併が市政の大きな課題となっております。

本市の教育は、昭和62年に「長野市教育大綱」を定め、明日を拓く深く豊かな人間性の実現のために、学校、家庭、社会の総合的な教育により、敬愛の心を培うとともに自律心や創造力を養うことを基底として、体力の増強とスポーツの振興、同和教育の徹底、青少年の健全育成、平和な国際社会をになう進展等を期し、深く豊かな人間性の実現をめざしております。

豊かな自然は、子どもたちに清らかな情操を育て、強じんな意志・体力を培うものであり、歴史と伝統に恵まれた文化は、創造の喜びや真理を追究する研究的態度を体得させ、感謝や畏敬の心を育てることにつながります。

また、全市的に少子・高齢化が進み、児童・生徒数が減少している状況にあります。特に、一部山間地では過疎化の影響から、昨年度（14年度）複式学級が発生した小学校があり、保護者の中では学校の現状を見て市街地へ転居する傾向も見受けられ、地域でも複式学級という事態を深刻に受け止めています。

複式学級のある学校は、山間地の豊かな自然環境と地域の文化伝統に恵まれており、児童の多くは三世帯同居の家庭で、祖父母とのかかわりや、地域の人たちとのふれあいの機会が多く、地域全体が学校をささえている状況です。

5 構造改革特別区域計画の意義

長野市教育委員会では、「長野市教育大綱」にある児童・生徒一人ひとりの人間性を深く豊かに鍛えのばす学校教育をめざし、将来を担う児童・生徒に最適な教育環境を整えていく必要があると考えており、その整備に努めています。

各学校では、学級ごとに独自性を持たせた授業を展開し、郷土を大切にし教科を離れた体験的学習などを中心に取り組みが行われています。子どもたちに社会的自立の準備、多様な力と才能を引き出し伸ばす場となるよう、それぞれ地域の特色あるものを教材に生かしながら学校・学級ごとに工夫がなされています。

小規模校がある山間地の小学校においても様々な体験活動が積極的に計画されています。中でも、複式学級の芋井小学校第一分校では、これまで地域と連携した教育を取り込み、農業体験を通して作物を生育し、畑や野菜苗などで協力いただいた地域の方を招待して収穫感謝祭を行うなど、ふれあいと交流を大切に学習を深めております。体験を通して児童一人ひとりは何事にも真剣に取り組み、最後までやり遂げようとする気持ちを培っていますが、その一方で、少人数学級であるため、「みんな仲良くしてほしい」というまわりからの願いに、お互いを思いやる気持ちが強く、反面、自分らしさが出し切れないことが多いという実態も見受けられます。

また、教室内での複式学級の授業は、二つの学年を同時に行うため、一学年当たり直接担任がかかわれる時間が実質的に半分になります。

これを補うため、本市では児童の学力向上を第一に考え、チーム・ティーチングのための教員の配置を行いました。しかし、チーム・ティーチングでは、校外学習で学年ごとに学校外へ出た場合や、児童の発達段階を考えた時に、例えば、小学一年生は保育園との交流、二年生はより対象を広げるなど学年に合わせた内容として、児童の興味関心を大切に進める場合は、学年が分かれてしまうと学級担任は1人しかいないことから、個々の学年において責任や指導体制の面から、活動範囲が限られてしまうことになります。

また、こうした学校では他から吸収するものが少なく、人間関係が固定

化してしまうことから、校外における教育活動は子どもたちにとって、大きな刺激となっています。教室を離れた多くの体験学習は、他人を思いやる心、生命や人権を尊重する心、自然や美しいものに感動する心、正義感、公德心、ボランティア精神、郷土を愛する心など、社会生活を営む上で必要な基礎的・基本的内容の習得につながっています。

更には、自分の考えを持って、意欲的に学習に取り組むことのできる子どもを育てることになり、いうまでもなく豊かな人間性を育成するとともに、地域の豊かな自然や社会・人・文化など様々な対象とのかかわりを通じて自分のよさ・個性を発見する素地を養い、自立心を培うこととなります。この様に、小規模校における校外での体験学習は、教育的効果がおおいに期待されております。

また、校外学習では、児童の発達段階に応じた取り組みが望ましいことから、学年ごとに責任・指導が行える学級担任の配置が是非とも必要になります。更には、市費負担教職員による学級担任の配置は、地域で培った教員や意欲のある教員を採用・配置することが可能となり、前述した教科指導も含め、きめ細かな学級運営が図られます。

6 構造改革特別区域計画の目標

長野市教育がめざす、児童一人ひとりが敬愛の心を培い、自立心や創造力を養い、さらに深く豊かな人間性の実現につなげていくためには、より地域と一体となった教育活動の中で、子どもたちに地域から育まれたとの思いを強く意識付け、郷土に愛情を持ち、地域を大事にする心を育むことが大切になります。

現在、複式学級となっている学校では教育活動の重点として、下記のとおり具体的な取り組みを進めています。

- (1) 学習活動のねらいを明確にし、ねらいを達成するのに適した学習方法を発達段階に合わせて工夫する。
- (2) 子どものねがいの実現に向けて、子どもの力でやり遂げられるような学習活動を工夫する。
- (3) 一人ひとりの児童理解に立った指導の充実を図り、自分の持ち味を十分発揮でき、自分に自信が持てるようにする。
- (4) 集団生活でのルールを学び、社会生活における基本的な生活習慣が身につけることができるようにする。
- (5) 地域との交流を通して、地域の中の自分という存在に気づき、一人一人が地域の一員だという気持ちを育てる。

新たな市費負担教職員による学級担任の配置は、単に複式学級の解消だけでなく、児童が持つ個性を伸ばし、たくましい人材の育成、小規模校におけるいきいきとした教育の推進が図られる。

更に、小規模校の教職員体制の充実、子どもに寄り添い、地域の教育力を発掘しながら「教える」授業から「共に学ぶ」授業へと改善していくもので、児童に「生きる力」を育む教育の展望が拓けるものと考えており、小規模校、小人数学級でこそできるきめ細かな教育、地域と連携した体験活動や地域住民も含めた事業の展開から、地域を担う人材が育成され、将来の人口の定住化や地域の活性化につながって行くものと考えます。

本市では、平成14年度に初めて芋井小学校第一分校で複式学級(1学級)が発生しましたが、児童数の推移から複式学級は今後も続くことが見込まれており、更には、平成16年度から、芋井小学校(本校)、七二会小学校笹平分校、平成20年度には七二会小学校(本校)でも、複式学級(1学級)が予測されており、これらの学校へも市費負担教職員による学級担任の配置を行います。

7 構造改革特別区域計画の実施が構造改革特別区域に及ぼす経済的社会的効果

複式学級の学校は、本市の北部から西部に位置する山間地にあり、美しい自然環境と同様に、伝統的な文化や風習などが多く残され伝承されています。また、農業の継続により農地が保全されている所やスキー場・観光地となっている地区など、それぞれ地域に特性があります。更には、山間地では自然派志向の流れから見直されてきている面もあり、子どもたちが地域社会に関心や愛着を持ち、社会的に寄与しようとする気持ちを持つようにすることは重要なことです。

学校教育において教職員体制の充実を図ることは、子どもたち一人ひとりの学力の向上とともに、将来への基礎づくりとして社会的な役割を果たすことの意義を体験的に理解させ、それを通じて地域社会に対する関心、愛着を高めることが地域に根ざした教育を進めることになり、地域を担う人材が育成されます。

このため、市費負担教職員による学級担任は、学校の実態にあった独自の教員採用が可能となり、地域を熟知した教員を配置することにより、体験学習を通して地域住民と一体となった教育を展開することができ、数々の体験学習等を通して少人数で沈みがちな小規模校の子どもたちの心を明るくし、活力ある学校づくりを進めることができます。

更には、小規模であっても地域に元気で明るい小学校が存続することにより、地域でささえようとする連帯感が一層醸成され、人口の定住化、地域の活性化につながっていきます。

8 特定事業の名称

市町村費負担教職員任用事業

9 構造改革特別区域において実施し又はその実施を促進しようとする特定事業に関連する事業その他の構造改革特別区域計画の実施に関し地方公共団体が必要と認める事項

長野市では、学校・PTA、子ども会育成会、地域公民館などが協力・連携し、地域に根ざした事業として「子ども公民館事業」や「子ども体験活動等活性化補助金事業」を実施しています。活動事業は、休日における子どもたちの豊かな体験活動や奉仕活動の場を提供したり、地域における体験活動を支援したりすることを通して学校の教員・保護者・地域住民が一体となって教育力を発揮し、子どもたちに深く豊かな人間性と自ら考え行動できる力、そして強靱な体力と意志力を育むよう取り組みを進めています。

(1) 子ども公民館事業

地域に根づく事業として、学校・PTA、子ども会育成会、地域公民館が協力して、家庭や地域の中で子どもたちの成長を支援し、豊かにたくましく育つことを目的に実施します。

主な活動事例...森林体験学習（森林環境・育樹体験学習） 地域の歴史探訪、親子木工教室など

(2) 子ども体験活動等活性化補助金事業

子どもたちに体験活動を通じて、郷土に親しむ心、たくましく豊かな心、思いやる心を育むことを目的に実施する。

主な活動事例...魚つかみ大会、そば作り、ウォークラリーなど

別 紙

1 特定事業の名称

8 1 0 市町村費負担教職員任用事業

2 当該規制の特例措置の適用を受けようとする者

長野市教育委員会

3 当該規制の特例措置の適用の開始日

構造改革特別区域計画の認定日

4 特定事業の内容

- | | |
|---------------|-------------------|
| (1) 事業の主体 | 長野市教育委員会 |
| (2) 事業の区域 | 長野市の全域 |
| (3) 事業の実施期間 | 構造改革特別区域計画の認定日 |
| (4) 事業の内容 | 市費負担教職員を学級担任として配置 |

5 当該規制の特例措置の内容

現在、学級担任を必要とする学校は、芋井小学校第一分校で、同校の複式学級となっている 1 学級を学年ごとの単式学級とするため、長野県教育委員会の学級編成の基準等に配慮をいただく中で、市費負担教職員の配置を計画するものです。

本市としては、この教員の配置は単なる複式学級の解消だけでなく、次の目的をもって配置いたします。

市街地校、山間地校であっても、一人ひとりの児童にとって能力、発達段階とも個人差のある時期において、最適な学習指導の確立、児童の学年に応じたきめ細かな教育環境を整える。

山間地を取り巻く厳しい社会情勢の中で、「少規模の学校をいきいきとした学校」にするため、市費負担教職員を配置する。

以上のことから、地域を担う人材の育成、地域の活性化をめざした長野市教育へとつなげたい。

なお、本市では、平成 14 年度に初めて複式学級が発生しましたが、芋井小学校第一分校では今後も続くことが見込まれており、平成 16 年度からは、芋井小学校（本校） 七二会小学校笹平分校で 1 学級ずつ、平成 20 年度には七二会小学校（本校）でも、複式学級（1 学級）が予測されており、これらについても市費負担教職員による教職員を配置してまいりたい。